

凡例	学修目標に直接関連する科目区分	基礎教育		共創学部専攻教育科目					
		基礎教育必修	共通基礎科目	エリア基礎科目	エリア横断科目	協働科目	経験科目	エリア発展科目	ディグリープロジェクト

◇科目名の後に(※)印のある科目は、一方が日本語で、他方が英語で開講される。
◇科目名の後に(※)印のある科目は、共創学部学を2つのクラスに分割して開講される。

学修目標		1年次				2年次				3年次				4年次					
区分	エリア	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期		
実践的 知識 (実 面 理 解 の 活 用)	・D. (共創的課題解決力) 「能動的学習能力」、「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション力」の4つの力を総合して、実社会の課題解決に取り組むことができる。																	ディグリープロジェクト1	
																			ディグリープロジェクト2
新しい 知 見 の 創 出 (評 価 ・ 創 造)	・C-2-2. (協働実践力) 構想した課題解決方策について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で協働して、実現可能な解決方策を提案することができる。																		
知識・ 理 解 の 応 用 (適 用 ・ 分 析)	・C-1-3. (能動的学習能力) 自らの課題意識を持ち、その課題を解決するために必要となる知識や能力を能動的に探究することができる。 ・C-1-2. (国際コミュニケーション力) 解決策の実行のために世界の多くの人にその内容を説明し、理解と協力を得ることができるコミュニケーション能力を持っている。																		
知識・ 理 解 の 習 得 (知 識 ・ 理 解)	・B-2. (情報リテラシー) 数値・データサイエンス等を基礎的リテラシーと捉え、文理を越えて共通に理解し、説明することができる。 ・B-1. (知識・理解) 課題解決に必要な基礎科学及び応用科学についての十分な知識について理解し、実社会の課題に結び付けて説明することができる。																		
主 体 的 な 学 び ・ 協 働	・A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し課題解決にあたること ・A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。																		
区分	エリア	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期		
学修目標		1年次				2年次				3年次				4年次					
学士課程の時期区分		入門レベル				基礎レベル				応用レベル				共創レベル					
アセスメント・プラン		達成度評価				達成度評価				達成度評価				達成度評価					
		基礎教育科目および共通基礎科目の成績評価。基礎教育の授業アンケート結果、アンケートリアルにおける学修報告書・学修計画書の記述内容の分析結果を確認				共通基礎科目・構想科目・エリア横断科目・エリア基礎科目・協働科目・共創基礎プロジェクト科目の成績評価。各授業の聴講生数と出席状況、専攻教育の授業アンケート結果を確認				共創科目-エリア発展科目・ディグリープロジェクト1、協働科目-共創プロジェクト科目、経験科目、エリア発展科目の成績評価。修学ナビゲーターへの修学相談状況、主エリアの選択確定状況を確認				ディグリープロジェクト3でのプレゼンテーションにおける発表内容、課題の解決策の創造を行う共創科目-ディグリープロジェクト2-3の成績評価を確認					

カリキュラムマップ-1(共創学部)

[共創学部] ディプロマポリシーに掲げる「到達目標」とカリキュラム(各科目)の相関 各科目の「到達目標」主関連には◎、副関連には○を付した		基幹教育科目における到達目標		専攻教育科目による達成目標									
				知識・理解の習得(知識・理解)		知識・理解の応用(適用・分析)		新しい知見の創出(評価・創造)		知識・理解の実践的場面で活用(実践)			
科目区分	授業科目の名称	A-1. (主体的な学び)深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。	A-2. (協働)多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることのできる。	B-1. (知識・理解)課題解決に必要な基礎科学及び応用科学についての十分な知識について理解し、実社会の課題に結び付けて説明することができる。	B-2. (情報リテラシー)数値データサイエンス等を基盤的リテラシーと捉え、文理を越えて共通に理解し、説明することができる。	C-1-1. (デザイン思考)新しい社会的価値やイノベーション創出のための課題発見および解決を目指すアプローチを構想できる。	C-1-2. (国際コミュニケーション)解決策の実行のために世界の多くの人にその内容を説明し、理解と協力を得ることのできるコミュニケーション能力を持っている。	C-1-3. (能動的学習能力)自らの課題意識を持ち、その課題を解決するために必要となる知識と能力を能動的に探究することができる。	C-2-1. (課題構想力)現実の問題に対応するため適切に課題を設定し、既存の学知を組み合わせて解決方法を提案することができる。	C-2-2. (協働実践力)構想した課題解決方法について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で協働して、実現可能な解決方法を提案することができる。	D. (共創的課題解決力)「能動的学習能力」、「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション」の4つの力を総合して、実社会の課題解決に取り組むことができる。		
基幹教育科目	基礎教育セミナー	○	◎										
	課題協学科目	○	◎										
	デザイン科目	文系	◎										
		理系			○		◎		○				
		デザイン思考			○		◎		○				
		情報科学			○	◎			○				
	総合科目	プログラミング演習			○	◎			○				
		その他の理系デザイン科目	◎		○				○				
	高年次基幹教育科目			◎				○					
	言語文化科目	Intensive English						◎		○			
学術英語C							◎		○				
初級外国語							◎		○				
共通基礎科目	共創デザイン思考発想法			○		◎							
	フィールド調査法			◎				○					
	科学論			◎				○					
	データサイエンス基礎			○	◎			○					
	複雑系科学入門			◎				○					
	グローバル・ストーリー			○				◎					
	グローバル・エンクス			○				◎					
	エリア横断科目	デザイン思考プログラミング演習					◎		○				
		デザイン思考プロセス演習					◎		○				
		デザイン思考エンジニアリング演習					◎		○				
ビッグデータ処理					◎			○					
実データ解析技法					◎			○					
データナリティクス					◎			○					
物理学の歴史と哲学				○				◎					
地学と生物学の歴史と哲学				○				◎					
科学技術社会論				○				◎					
複雑系科学論				○				◎					
構想科目	Thermo-Dynamical Properties			◎				○					
	量子現象科学論			◎				○					
	Python Programming for Analysis				◎				○				
	進化学と進化			◎				○		○			
	Molecular & Cell Biology			◎				○		○			
	Brain & Information			◎				○		○			
	社会哲学論							○		◎			
	言語コミュニケーション論						◎		○	○			
	社会共生論							○		◎			
	地域研究基礎論							○		◎			
エリア基礎科目	政治・経済基礎論							○		◎			
	歴史基礎論							○		◎			
	地球の理解			◎				○		◎			
	自然環境と社会			◎				○		◎			
	自然災害・資源			◎				○		◎			
	地球環境実習			◎				○		◎			
	レクチャーシリーズ							◎		○			
	協働科目	共創基礎プロジェクト1						○			◎		
	共創基礎プロジェクト2							○			◎		
	経験科目	共創プロジェクト1							○			◎	
共創プロジェクト2								○			◎		
異文化対応1			○					◎					
異文化対応2			○					◎					
海外活動A1								◎					
海外活動A2								◎					
専攻教育科目	人間・生命エリア	進化生物学						◎		○			
		発生生物学							◎		○		
		Physiology and Behavior							◎		○		
		Stress and Nutrition							◎		○		
		Biochemistry							◎		○		
		Advanced Molecular Biology							◎		○		
		病態生理							◎		○		
		健康の科学							◎		○		
		Cognitive science							◎		○		
		Bioethics							◎		○		
	人と社会エリア	生命情報科学							◎		○		
		システム神経科学							◎		○		
		多文化共生の世界秩序							○		◎		
		教育倫理学							○		◎		
		人間社会研究法							○		◎		
		言語とコミュニケーションA						◎			○		
		言語とコミュニケーションB						◎			○		
		議論と創造のコミュニケーションA						◎			○		
		議論と創造のコミュニケーションB						◎			○		
		異文化とコミュニケーション						◎			○		
	エリア発展科目	メディアとコミュニケーション						◎			○		
		先史社会を知るA							○		◎		
		先史社会を知るB							○		◎		
		国際福祉論							○		◎		
		生き方の人類学							○		◎		
		国際政治学							○		◎		
		グローバル芸術論				◎						○	
		比較地域研究							○		◎		
		東アジア地域研究							○		◎		
		国家と地域エリア	地域生態論							○		◎	
開発経済学								○		◎			
国際関係論								○		◎			
国家と政治								○		◎			
日本経済史								○		◎			
埋蔵文化財から見える世界								○		◎			
地域史								○		◎			
比較史								○		◎			
地球物質科学								◎		○			
地球環境学								◎		○			
地球・環境エリア	大気海洋科学							◎		○			
	地球の変動							◎		○			
	社会の中の地球科学							◎		○			
	地盤学と災害							◎		○			
	生物多様性科学							◎		○			
	保全遺伝学							◎		○			
	環境保全・再生							◎		○			
	流域環境学							◎		○			
	環境地理学							◎		○			
	環境都市政策							◎		○			
ディグリープロジェクト科目	ディグリープロジェクト1							○			◎		
	ディグリープロジェクト2							○			◎		
	ディグリープロジェクト3							○			◎		